

第 84 回日本健康学会総会  
連携研究会セミナー3 「エコヘルス・健康観の変遷」  
時間：11月3日、13：30～16：30時  
場所：長崎大学医学部坂本キャンパス

## 趣旨

本セッションは健康観という観念について考察する。健康に関するオントロジーの概念同様、おおよそ健康観とは、健康と病気について共有されている暗黙の考え方や概念である。健康観には、健康と病気の表れと影響に関するパターン化した考え方や、原因と構造に関する解釈も含まれる。健康観は、世界観に根ざしており、社会構造やプロセスとも複雑にからみあっている。一般的に、「伝統的」社会における健康観は包摂的で社会に組み込まれたものとして議論する一方で、「現代的」健康観は、機械的で個人主義的なものとする傾向がある。本セッションでは、特定の時代と文化的背景における特定の集団の健康を考察する方法として、健康観をより具体的に探求する。

基調講演による背景紹介に続き、セッションの主要部分では、事例研究の短い紹介を複数行い、特定の時代・文化における健康観の例を検討する。事例紹介での論点の例として下記のもの挙げられる。

- ・健康観と関連付けられる実践習慣としてどのようなものがあるか（例：予防、治療、行動、公衆衛生による介入等）
- ・健康を説明する際に用いられる比喻
- ・健康観が、内向き（個人や体内を見つめる）か外向き（個人・体の外との関係を探る）か
- ・健康観が、還元主義的か包摂的か
- ・健康観が、誰の知識に基づいているか
- ・健康観が、どのような世界観に基づいているか

事例紹介に続くパネルディスカッションでは、事例を通してどのような洞察が得られるか議論する。議論を進める上で、下記を含む問いについて考察する。

- ・複数の健康観を検証する中で、どのようなトレンドやパターンが広く認められるか。
- ・健康観の違いによって、社会環境や自然環境が健康におよぼす影響の解釈にどのような違いがあるか。
- ・それぞれの健康観は、社会関係や権力に対してどのような意味・影響をもつか
- ・健康観は、広い意味でどのような社会変化に組み込まれているか（例：近代国家の発展、植民地化、軍国主義、消費社会の発展）

## プログラム

13:30～14:15      基調講演：中澤港

14:15～15:45      事例発表

- 入口敦志「曲直瀬道三の養生書に見る健康観」
- 浦山きか「中国（と日本）の伝統的な医書の禁忌に見られる健康観—からだの内と外をつなぐもの」
- 高津孝「琉球王の病」
- 福田安典「環境文学としての日本古典文学研究」
- 福士由紀 「「健康」の売り文句：『申報』掲載の肝油広告の初歩的分析（1890s - 1940s）」
- 平体由美
- ハイン・マレー 「『Planetary Health』と健康観」

15:45～16:30:パネルディスカッション

門司和彦

入口敦志

野林厚志

ハイン・マレー